

ピアカウンセリング講演会 —「大人の発達障害」の妻と 「高次脳機能障害」の僕の家庭改革—

みなさんは、「自立している人」とは、どのような人だと思いますか。例えば、一人前に仕事をし、一通りの家事もできる。つまり、自分である程度ことができ、一人でも生きていける人。「自立」という言葉に、そのようなイメージを持つ方は多いかもしれません。人が生きていくのに本当に必要なことは何なのか。妻との暮らしのなかで、講師が思い至った新見地を語ります。

【開催日時】

令和2年2月26日（水）

午前10時～11時30分

【開催場所】

コール田無 イベントルームA・B

【申込方法】 電子メール又はFAXで、①住所、②氏名（ふりがな）
③年齢、④電話番号を明記してください。

【定員】 70名程度（申込順）

【申込宛先】 西東京市教育委員会教育部教育支援課
（電子メール）k-sien@city.nishitokyo.lg.jp
（FAX）042-420-2889



■講師紹介■

鈴木大介（すすき・だいすけ）：文筆業

貧困問題をテーマにした『最貧困女子』、『ギャングース』、『老人喰い』など著書多数の取材記者だった講師は、実は妻との暮らしに困り果てていました。仕事も家事も多忙を極めていたこともあり、41歳で脳梗塞を発症、高次脳機能障害に。やりたくても思うようにできず、周りに伝えたくてもうまく言葉が出せず、その気持ちを医者も分かってくれないことに苦しみます。目に見えない障害がこれほどまで周囲に理解されないものであり、これまで自分が取材してきた社会的弱者の苦しみを自分はまったく分かっていなかったと愕然とします。そのとき、講師の気持ちを理解してくれたのは「働くこともできず、家事もできない発達障害」の妻でした。妻に頼らざるを得なくなり、ここから2人の家庭改革が始まります。『されど愛しきお妻様「大人の発達障害」の妻と「脳が壊れた」僕の18年間』の著者である講師が、妻との悪戦苦闘を語ります。

発達障害に関してご家族や身近な方がヒントを得られるお話です。ぜひご参加下さい。

【お問合せ】

西東京市教育委員会教育部教育支援課相談係 屋代・大學 （電話）042-420-2829